

< 30-01 >

課題名	経営発展段階に応じた就農者支援	人づくり・ 組織づくり	京都乙訓農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 農業基礎知識の習得と仲間づくり		(2) 普及指導対象 就農概ね3年目までの農業者	
(3) 活動内容と成果 <p>・ 受講者に対し農業経営についての基礎知識を習得してもらうため、栽培技術を中心とした農業基礎講座に農業経営の講義を加え、また別途オープン講座にも取り組み、開講日数を増やす等して実施した。その結果、受講生の記帳の重要性、決算書による経営の評価、経営計画など農業経営に関する理解が進むとともに、栽培技術や農業経営に関する農業の基礎知識が習得できた。</p> <p>・ 相談できる仲間作りの機会を増やすため、農業基礎講座の中に交流会を設定して実施した結果、交流会により新規就農者同士が出会い、交流を続けるきっかけができた。また、先輩農業者を講師にしたことで、相談できる人との接点もできた。</p> <p>・ 幅広く学ぶ機会として、農人材育成センターの講座（農業経営研修）などの研修会や交流会の情報を提供したことにより、農業経営研修を1名が受講し、京都若手農林漁業者大交流会（12/20）への参加を促せた。また、相談できる先輩農業者を作るため、京都市青年農業研究会への誘導した結果、受講者4名が加入した。</p>			
(4) コメント		(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<p>① 新規就農者の技術レベルの向上を目指した基礎講座等は良い活動であり、農業の基礎知識に焦点を当て効率的な活動を行っていると考えます。受講者のニーズに応じ、基礎講座の対象を拡げたり、開催回数を増やすなど、講座内容（栽培技術の各論）の充実と運営のマニュアル化の検討もお願いしたい。</p>		<p>① 農業基礎講座の対象者 年齢制限は設けず、農外からの新規就農者、農家子弟、定年帰農者、法人等への雇用就業者など、基礎技術習得が必要な農業者を対象としています。また、30年度からは経営の応用講座をオープン講座とし、法人化や合理的経営を目指す受講生以外の農家の方も参加できるようにしました。</p> <p>○ 講座回数の増加 経営管理能力を強化するため講座を1回増やします。30年度は「農業簿</p>	

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
<p>② 個別には経営の方向性も異なり、意欲に濃淡があるかと思われませんが、交流を通じた仲間づくりにより、様々な不安感が払拭されていると思われ ます。先輩農業者等と連携した地域での交流も必要ではないか。</p>	<p>記と決算書」の講座を実施したが、31年度は「簿記、会計の基礎知識」と 「会計を踏まえた経営」の2回を開催することとします。</p> <p>○講座内容（栽培技術の各論）の充実</p> <p>受講者のニーズは毎回アンケートを実施するとともに、地域担当者が聞き取りにより把握しています。30年度の講座もこれまでの要望をもとに 「農作物の特性と栽培」の講座を増やし、根菜、果菜、葉菜の特徴を理解 して応用できるよう、生理や生育条件等を学んでもらいました。また、先 輩農家のほ場視察研修や農業機械の点検整備など、生産現場での実地研修 も行っています。</p> <p>さらに、31年度からは、根菜、葉菜の栽培技術については、先輩農家 のほ場で実際に作業や現物を見ながら説明を聞く形式の現地技術研修と して、新たに取り組みたいと考えています。</p> <p>○運営のマニュアル化</p> <p>講座の内容ごとに「ねらい」を整理し、受講生の反応や要望を把握して 講座内容を設定するとともに、受講生が各講座のポイントを理解している か等、受講生の反応を確認するタイミングや内容を明確にしながら、より よい講座に改善していけるよう運営マニュアルを作っていきます。</p> <p>② 交流について</p> <p>これまでどおり講座の中で先輩農業者のほ場視察研修を実施し、つな がりづくりをします。</p> <p>また、概ね40歳以下の青年受講生については、京都市農業青年研究会 (乙訓地域の会員も在籍)へ参加誘導しています。今年の講座受講生につ</p>

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
<p>③ 講座修了後の仲間づくり、地域とのつながりへのフォローやサポート体制の検討が必要ではないか。新規就農者に対し長期的な育成方向（成果指標）も必要ではないか。</p> <p>④ 課題名の就農者支援に向けて、農地確保を含む就農環境の整備や、受講者がめざす農業形態に応じた実地研修等の受入れなど支援体制を整え、農外からの者に対しての農地確保から機械整備等への対応、農家子弟や法人雇用者への支援と分けて対応していく必要を感じるが、いかがか。</p>	<p>いては、25名のうち青年受講生（概ね40歳以下）は10名あり、うち6名が京都市農業青年研究会に加入しましたので、高い割合で青年研究会へ参加誘導できました。その他の受講生も、地域の農業者グループ等へつなぐよう誘導しています。</p> <p>○<u>交流の充実</u></p> <p>31年度からは、講座の中で交流してもらおう先輩農業者を増やし、地域ごとに少人数で濃密な交流の機会を持つ予定です。</p> <p>③ <u>講座修了後の継続支援</u></p> <p>継続支援が必要な講座修了者には、普及計画の「普及指導事項①面談や個別支援による課題解決支援」の対象者として、中期的に数年間支援を行っています。また、経営の基礎が確立し、新たな取組みを行う農業者には、「普及指導事項③経営向上のために情報提供、課題解決への活動支援」の対象者として長期的に支援をしています。</p> <p>○<u>地域でのサポート体制について</u></p> <p>受講生のうち、地域とのつながりやフォローが必要な人（次世代投資資金の対象者等）については、当普及センターの地域担当の他、関係機関、地元農家、農業士等がサポーターとして支援をしています。</p> <p>④ <u>就農者支援について</u></p> <p>農地確保や機械整備への対応、就農希望者が目指す農業形態（独立自営、雇用就農等）に応じた研修等の支援体制については、経営支援・担い手育成課、JA、市町、農業大学校、農業会議等と連携して支援しています。</p> <p>当普及センターの普及計画においても、農業者の段階に応じて普及指導</p>

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
<p>⑤ 講座募集対象は、「発展段階に応じた・・・」であるので、様々な段階の方々が対象になっていると考えられるが、参加者の間にどの程度知識や意識の違いがあるかわかりません。例えば農業への関り方として、「就農希望」、「就農考え中」、「趣味として」のように分類し、それぞれの方が基礎講座を受講してどのような反応を示しているかを伺いたい。</p>	<p>項目を設定し、こまめに就農者等の対象者と連絡を取り、要望や状況を把握しながら、必要な関係機関と連携して支援を進めています。また、京都府では「就農希望」、「就農考え中」など、職業として農業を検討する方のワンストップ窓口として京都府農業会議が「農林水産業ジョブカフェ」を開設しており、相談の他、体験研修等のメニューを揃えて対応しています。その上で、実践的な研修を希望する方や就農地を探す方に対しては、ジョブカフェなどと連携し、府立農業大学校の他、普及センターを窓口として地域の研修先を探すなどの対応をしています。</p> <p>さらに、京都府では、年に2回新規参入者向けの就農相談会を実施している他、全国規模の「農業人フェア」にも京都府農業会議が出展しています。</p> <p>⑤ <u>農業への関わり方の違いによる反応</u></p> <p>普及センターの基礎講座では、「就農希望」「就農考え中」「趣味として」の方は対象としていませんが、講座受講者を「新規参入」「親元就農」「法人等雇用就農」に分類することができます。</p> <p>その分類によるそれぞれの反応は、「新規参入」では、「農業を志す仲間と知り合えた。基本的な技術、知識を学べて良かった」、「親元就農」では、「広く農業技術を学ぶことができ、親から学んだ作業の意味がわかった」、「法人等雇用就農」では、「病虫害に早く気づいて防除するなど業務に生かしたい」などとなっています。</p> <p>○<u>発展段階に応じた講座について</u></p> <p>京都農人材育成センターでは、発展段階に応じた講座（別添参照）を開講しており、普及センターの農業基礎講座は其中で「就農直後フォロー</p>

(4) コメント	(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等
	<p>研修」の位置づけとなっています。</p> <p>そのため、就農準備（研修）中の方から就農後概ね3年までの方を対象としており、「就農希望」や「就農考え中」の方は対象としていません。</p> <p>また、販売用の農産物生産のための基礎講座であるため、「趣味として」の方はお断りしています。</p> <p>また、普及センターの農業基礎講座の修了者については、次のステップとして「農業経営塾」、「農企業者育成研修」、法人リーダーを育成する「リーダー養成研修」等へ段階的に誘導しています。</p>